

2026年度 一般選抜前期日程 [経済学部] 小論文(長文理解)
出題の意図と解答の傾向

問題

【出題の意図】

本小論文は、箱谷真司『観光立国・日本 ポストコロナ時代の戦略』(光文社新書、2022年)から出題した。本書は、新型コロナ感染症の拡大により最も被害を受けた産業である観光業に焦点を当て、コロナ禍以前のインバウンドによる『爆買い』の状況や様々な課題が、コロナ禍以降、インバウンドの受け入れ再開に伴いどのような形で新たに観光現場に生じているのかを、新たな取り組みや葛藤を織り交ぜながら検証した書籍である。

今回取り上げたオーバーツーリズム(観光公害)の部分は、コロナ禍以前から国内の主な観光地で、ごみのポイ捨て等地域住民の日常生活が脅かされることにより様々な軋轢が生じる等の問題となっていたが、コロナ禍以前の状態には戻りたくない等、地域住民の切実な声を受け、解決へ向けて取り組んだ京都の事例を取り上げるとともに、観光公害が生じる背景まで深く踏み込んで問題提起をしている。

コロナ禍以降、経済発展が進むアジア等では海外旅行へ行く人も増加しており、様々なオーバーツーリズムの影響は観光業が基幹産業となっている地域経済にも影響を及ぼしており、観光と地域が抱える様々な課題や解決策等について、経済学部を志望する受験生に多面的に捉えてほしいと考え本書を取り上げることにした。

<設問1>

【解答の傾向】

設問1は、筆者が本文中で紹介している「ツーリストシップ」とは、誰がどのように定義したものかを聞いており、具体的に誰が考えた言葉であるか記載している部分と、「ツーリストシップ」について定義した部分について説明することにより解答は可能であると考え。課題文として比較的平易な文章であることから、受験生にとっては取り組みやすい問題であったと考える。しかし、設問の「どのように定義した」に対して、定義に至る経緯に関する説明に終始している解答が散見された。誰が考えた言葉であるのか、定義した内容がどのようなものであるのか、問いに対する丁寧な解答となっていないものは減点の対象とした。

【解答例】

「ツーリストシップ」とは、一般社団法人 CHIE-NO-WA の田中千恵子代表理事が「スポーツマンシップ」にちなんで考えた言葉で、「住む人・訪れる人・働く人、観光地に集うすべての人が意識したい心構え」と定義され、具体的には「人・モノ・自然・文化・歴史・・・その地に存在するすべてを大切にすること」「お互いに思いやりをもって接すること」としている。(161字)

<設問2>

【解答の傾向】

設問2は、観光公害に対して「ツーリストシップ」が今後どのような役割を果たしていく可能性があるのか、本文の記述をきちんと押さえて説明するとともに、受験生がオーバーツーリズム（観光公害）や日々の社会情勢等を見聞きした経験から、解決の方法について自分自身の考えをどの程度提示することができるか判定する内容としている。

本文中にある「ツーリストシップ」の記述を丁寧に押さえたうえで、日頃から新聞やテレビ等で報道されているオーバーツーリズムの状況や問題点等を少しでも認識していれば、ある程度解答は可能であろう。実際、受験生が居住している地域で発生しているオーバーツーリズムの状況を具体的に記述し、その解決策についての自身の考えを具体的に記述できている解答も多くあった。

その一方で、「ツーリストシップ」が今後どのような役割を果たしていく可能性があるのかについて全く記述していない解答、観光とは無関係な地域の課題を、受験生の個人的な経験のみで持論を展開している解答、ツーリズムの問題から離れ、政治的な議論を中心としていたものや、筆者の見解を繰り返しただけの解答も散見された。また、問題に言及する際に、具体的な地名を挙げて詳しく述べた解答と、具体的な地名を挙げず抽象的に議論する解答が混在しているもの、事実誤認が含まれものや、設問1の解答に該当する箇所が設問2の前半に書かれている解答もあった。

受験生には、社会情勢や物事を、様々な立場と視点で見ることができるか否かについての姿勢も問われている。また、各高校での小論文指導等が、どの程度受験生に浸透し身に付いているかどうかの判断ができるような解答も多々あった。

【解答例】

観光公害は互いの文化への理解不足など、人と人との小さなすれ違い、ボタンの掛け違いで起きることから、「ツーリストシップ」が今後さらに広がり、観光客、住民、地元の事業者の3者それぞれが自らの振る舞いを考え、互いに思いやりを持ち、世界の共通語になれば問題解決につながる役割を果たす可能性がある。私の住んでいる地域でもインバウンドの増加により、大型観光バス等による週末の交通渋滞や駐車場不足等の問題が発生している。また、テレビ等では観光客によるごみのポイ捨て等のマナー違反等も問題となっており、それが増加し続ければ、地域住民のインバウンドに対するイメージも悪化してしまう可能性がある。駐車場整備等は行政の役割であるが、私個人としてできることとして、インバウンドの方を見かけた場合には、「ツーリストシップ」を思い出し、相手を尊重しながら声掛けをすることでお互いを理解するきっかけづくりから始めていきたいと思う。(400字)

<その他>

全体的に、日本語の文章として読みやすい解答と、そうでない解答の差がはっきりしていた。誤字や漢字の使い方等に誤りのあるものについては次の通りであった。

(誤) 誘れる→(正) 訪れる (誤) マナ→(正) マナー

(誤) 交公共交通→(正) 公共交通

(誤) ツーリズムシップ→(正) ツーリストシップ (誤) 決解→(正) 解決
(誤) 自際→(正) 実際 (誤) 続む→(正) 読む
(誤) 定議→(正) 定義 (誤) しいては→(正) ひいては
(誤) 接っする→(正) 接する (誤) 自感した→(正) 実感した
(誤) 提進→(正) 促進 (誤) 取り上がっている→(正) 取り上げている
(誤) ツーシップリスト→(正) ツーリストシップ
(誤) 一般社会法人→(正) 一般社団法人 (誤) 構座→(正) 講座
(誤) リフューズ→(正) リユース (誤) エ害→(正) 公害
(誤) 往民→(正) 住民 (誤) 優占→(正) 優先 (誤) 報導 →(正) 報道
(誤) 転買→(正) 転売 (誤) 違範→(正) 違反 (誤) 観行 →(正) 観光
(誤) 構習会→(正) 講習会 (誤) 進んでいる→(正) 住んでいる
(誤) 結がる→(正) 繋がる (誤) 撤底→(正) 徹底
(誤) 環境公害→(正) 観光公害 (誤) 注意書き→(正) 注意書き
(誤) 不可決→(正) 不可欠 (誤) 増化→(正) 増加